

# 平成22年度 総括評価表

佐賀市立城東中学校

1. 学校教育目標
夢を持ち、夢を追う生徒、根のわかる、根になれる生徒、感動できる生徒の育成

2. 学校経営ビジョン
統一した生徒像・教師像・保護者像・学校象 ① 根のわかる、根になれる 生徒・教師・保護者・学校 ② 夢を持ち、夢を追う 生徒・教師・保護者・学校 ③ 感動できる 生徒・教師・保護者・学校

3. 本年度の重点目標	4. 前年度の成果と課題
1 学びあいを柱とした学習指導の充実 2 わかろうとすることを大切に学習指導の充実 3 心に響く生徒指導の充実 4 心を耕す教育活動の充実 5 美しい環境整備の推進 6 同じ方向をめざす学校・家庭・地域の教育力の向上	1 学習指導の充実を図るため家庭学習を行うための手だてを工夫する必要がある。 2 朝の読書時間に読み聞かせなどを取り入れ、情操面の一層育てることで、落ち着いた雰囲気の中で授業へ入り意欲的な取り組みができるようにする。 3 生徒達が自分に自信と誇りを持てるような活動を、一層取り入れることで明るく活動的な学校生活を送れるようにする 4 食育として、きちんと3食取るように指導をする。特に朝ご飯の重要性をたよりやホームページなどでも紹介する。 5 小・中連携をより充実させ、一人でも多くの生徒が城東中学校へ入学するよう

5. 総括表						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
学校運営	1 ○ 学校経営方針	・学校教育目標や学校経営ビジョンの周知	・教職員、生徒、保護者に学校教育目標や教育ビジョンを広く知らせる。特に、学校教育目標については、保護者への周知率を85%以上にする。	B ・学校目標を周知する方法の一つとして、広場を設けることで学校や生徒の活動の様子を生徒や保護者・地域の方へ周知率を昨年よりあげている。 ・校区内の会議、行事へ参加した際に学校の様子などを伝えることで、学校をより身近なものと感じる保護者や生徒が増えてきている。	・学校目標を校内に掲示するとともに全校集会において心に響くように説明する。 ・学校だよりやPTA総会、ホームページ等あらゆる機会を通して、各方面に知ってもらうよう努める。	○集会や広場の掲示物を通して、経営方針を伝えることで具体的なイメージを持つことが生徒が増えてきている。 ●保護者への通信類が手元へ渡らないことがあるので、ホームページやメールでの連絡方法を工夫すること生徒への意識付けを行う必要がある。
学校運営	2 ○ 安全な学校づくり	・危機管理体制の整備	・校内外における生活事故・交通事故発生が起らないようにする。	B ・毎月の安全点検を実施し、校舎内の危険箇所の改修を行い校内事故を減らすことができた。 ・自転車への安全意識を高めるため、全校一斉の自転車点検や駐車場の整地を行った。集会などで安全に対する意識付けを行った。	・危機管理マニュアルの見直しを行う。 ・校内安全点検を毎月行い、改善が必要な箇所は短期間の内に改善する。 ・校外における危険箇所等について、PTAや地域住民から情報収集を行い、生徒への指導に役立てる。	○毎月の安全点検を行うことで、危険箇所の早期発見及び修理が可能になった。 ○PTAによる校区内巡回指導を増やすことで、校区内の安全に対する意識を保護者へ増加しているため、学級や部活動での指導を工夫することが必要である。
学校運営	3 ○ 家庭・地域社会との連携	・開かれた学校づくりの推進	・学校の様子に関する周知率を85%以上にする。	B ・学校、学年その他の通信を定期的に発行することで、学校や学年の様子を知らせることができた。 ・ホームページの更新も2週間に1回のペースで行ったが、生徒の活動の様子などを画像で発信することがあまりできなかった。 ・地域行事へボランティアとして生徒に参加させるようにしたが、部活動の関係で一部の生徒だけになった。 ・PTA行事への参加率を	・学校からの各種たより、ホームページなどで情報発信をするとともに学校評議員会、PTA各種委員会、地区懇談会、民生委員会などあらゆる機会を通じて周知に努める。 ・校長たよりを校区内の各地区で回覧できるように努める。 ・携帯メール配信事業の登録を90%以上にすることで学校の様子に関する周知率を高める。	○学校たよりを校区内の公民館を通じ回覧してもらうことで、地域住民の方に対して、学校の様子を周知することができた。 ○PTA活動で各委員会ごとに活動を工夫することで、保護者の参加率が上がっている。 ●地域行事へ生徒が積極的に参加できるよう学校行事や部活動などの計画を工夫する必要がある。
学校運営	4 ○ 小中連携	・小学校との連携の充実	・城東中学校への進学希望者を85%以上にする。	B ・中学校入学時の不安を取り除くために、小学生に対して中学校での学習や部活動に関する入門や体験等の取り組みは、生徒・保護者・職員ともに、良く推進されていると思っている。しかし、9か年で子どもを育てようとする小中連携については、疑問を持っている教師も少なくない。	・小中連携の組織を基に、義務教育9か年で子どもたちを育てるための土台を作る。 ・小学生の授業体験や部活動体験、ふれあい体験を充実させる。 ・校区内の小中学校全教師参加の研修会や巡回あいさつ活動を実践する。	○入門プロジェクトによる「授業体験」や「部活動体験」は、中学校に入学する6年生にとっては、不安を取り除くためには大いに成果があった。また、中学生が小学生に就いて「ようこそ先輩」でも小学生に中学生を理解してもらい大いに役に立つものと期待する。 ●今回設立する地域教育推進プロジェクトを基盤に、小中が連携して義務教育9か年でいかに子ども達を育てていくかが課題である。
教育活動	5 ● 学力向上	・学びあいを柱として、グループ学習を取り入れた学習指導の充実・わかろうとすることを大切に学習指導の充実	・「学びの共同体」づくりを進め、自己肯定感を実感できる学習活動を展開する。 ・県の学習状況調査において、各教科で県平均以上の通過率を目指す。 ・教科の学習において、わかろうとしている生徒を一人でも増やす。	B ・授業中のグループ学習を取り入れることによって、生徒は「やる気をもって」学習に取り組む。学力も向上していると感じている。しかし、保護者は生徒ほどは実感を感じていない。 ・職員はチャイムと同時に授業を行うことができている。生徒達は、落ち着いた学習に取り組む姿勢を見せている。 ・朝読書については、全校生徒がまじめに取り組むことができている。静かな環境の中での「学び」の場の始まりをつくる。	・授業の中に少人数のグループ学習を組み込み、クラスの中での生徒同士の関わり合いを増やしていく。 ・全職員が早めに教室に行き、チャイムと同時に授業を開始・終了するとともに校内巡視を継続する。 ・朝の読書を毎日実施し、静かな環境の中で「学び」の場の始まりをつくる。	○生徒は「やる気をもって」学習に取り組む、学力も向上していると感じている。 ○朝読書による静かな学習環境作りは整っている。 ●学力向上を数値的に示せるようにしていく必要がある。

6 ●	生徒指導	・心に響く生徒指導の充実	・生徒・教師・保護者に対し、本校の4つの基礎・基本について周知する。 ・問題行動等の発件数を前年より減少させる。 ・不登校の生徒数を前年より10%以上減少させる。	B	・毎月の生活アンケートの実施ができなかった。 ・毎週、生徒指導部会を開催することができ、情報の共有ができた。 ・グループローラー作戦ができた。 ・毎朝生徒玄関のあいさつ運動で生徒に対し声かけを行うことができた。 ・生徒会の自治的活動を促そうとしている。	・月に生活アンケートを行い、生徒の実態把握に努め個別の対応に役立てる。 ・定期的に生徒指導に関する会議を開き、情報を共有化して、予防的・積極的な生徒指導の充実を図る。 ・不登校(傾向)生徒に対して3名程度のチームで対応するグループローラー作戦を展開する。 ・毎朝、生徒玄関での挨拶運動を行うとともに、生徒への声かけを継続するなど自己肯定感を高める指導をする。 ・生徒会の自治的活動	○アンケートを実施することで、いじめを未然に防げなかった。 ●情報の共有化はできたが、指導を全職員で行うようにしている。 ●職員全体で小さいことのルールを守る指導や声かけが徹底できなかった。
7 ●	心の教育	・心を耕す人権・同和教育の推進	・自己肯定感を高め、自他を尊重できる生徒を育てる。 ・アンケートに「学校生活は楽しい」と答えられる生徒を、90%以上にする。	B	・生徒の「自分が好きですか」の質問では、学習面や部活動面などで努力をしても、思春期ということでなかなか自分を好きになれない時期なのではないか。 ・生徒も保護者も「悩み事の相談、対応」については、学校と協力がされていないと感じているのに対し、職員はおおむね適切に対応できているというところで、少し意識に差があると考えられる。	・差別の現実深く学びながら、差別を見逃さず、差別を許さない、差別と闘うことのできる生徒を全教科・全領域で育てる。 ・人権・同和教育の授業実践、人権講話、人権作文・標語などに取り組み、身の回りにおける課題に気づきあい、その解決に取り組むことにより自治意欲・自浄能力を高める。 ・参加体験型学習や構成的グループエンカウンターなどの手法を取り入れた学級作りをする。	○「いじめにない学級、学校づくり」に関しては、人権集会や授業実践の成果が表れていると考えられる。多くの生徒は学校を楽しんでおり、保護者もそう感じている。今後も引き続き、仲間づくりや自己肯定感を高める授業実践をしていきたい。 ●「悩み事の相談、対応」に関しては、改善が必要と考えられる。生活アンケート等の実践後の家庭との連携、対策をしっかりとしていきたい。また、生徒の多くは学習、成績についての悩みを持っているため、学力向上と連携していく必要がある。
8 ●	健康・体づくり	・主体的に取り組む部活動の充実	・生徒の部活動出席率が90%以上とする。(正当な理由での欠席除く)	B	・部活動が充実した活動になっていると感じている生徒は85%を越えており、各種大会でも頑張っている。 ・職員が積極的に子どもに関わっていく必要がある。	・生徒が互いに励まし合い、認め合いながら、自信と誇りを持って日々の活動に打ち込むことができるよう指導・支援する。 ・生徒のバランスのとれた生活や成長のために、休養日や練習時間を生徒の実態に応じて設定する。	○部活動での頑張りや成長をほめて、伸ばしていくことで、学校生活の向上につながっていると感じる。 ●生徒の実態に応じた活動計画を保護者に知らせ、理解を得る必要がある。 ●全職員が一体となって積極的な関わりが必要である。
9 ●	健康・体づくり	・食に関する教育の充実 ・規則正しい生活習慣の確立	・朝食を食べる生徒の割合を90%以上にする。	B	・健康調査により生徒の体調を職員が共通理解することができた。 ・朝食をとっている生徒が80%となっている。 ・学校からの朝食の重要性について、保護者への情報提供及び協力依頼が少なかった。	・朝の健康調査で確認する。 ・朝食の重要性について、計画的に指導するとともに、保護者にも協力依頼を継続する。 ・睡眠時間と学習についての関係を授業でも取扱自覚を促す。	○朝食の調査では、教師間の共通理解が深まった。また、保護者との連絡も取れているので、継続していきたい。 ●朝食や睡眠については意識が高まりつつあるので、今後保護者を含めた学習の場をつくることで連携を深めることができると考える。
10 ○	中1選択制充実(少人数指導・TT指導)	・1年生における少人数・TT指導の充実	・「授業がわかる」という生徒の肯定的評価を85%以上にする。	B	・一斉授業と比べてTTや少人数授業の方が「集中して取り組むことができる」「質問しやすい」という調査項目に対して、「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた生徒がともに80%を超えた。一方、保護者は自分の子どもがTTや少人数授業で意欲的に授業に取り組んでいると思われる家庭が少ないことが、この評価につながった。	・入学後4～5月に学習習慣を確立させる。 ・授業に関する情報交換などを密に行い、指導方法の改善に取り組む。	○「一斉授業と比べてTTや少人数授業の方が集中して取り組むことができる」と答えた生徒は80%と高い比率となった。 ●別のアンケートで行った「勉強がわかりやすくなった」という調査項目に、「あてはまらない」と答えた生徒が7月には35%であったが、1月には38%と増えていることが課題である。
11 ○	環境整備	・環境整備の推進	・前年度に比べ、教室環境・掲示物などがよく整備され、環境美化に積極的に取り組んでいると感じる生徒を80%以上にする。	B	・積極的に取り組んでいると感じる生徒が過半数を超えているが、目標値である80%以上には、到達することができなかった。	・年1回、全校生徒・全職員・保護者によるクリーン大作戦を行う。 ・生徒が制作した絵画を展示したり、学年で統一した掲示物を工夫するなど環境整備を推進する。	○全体的に環境美化に対する意識は高いものがある。 ●教室環境作りや掲示物については、教師主導の面が強く、そのため学級や学年によって偏りが見られる。 ●清掃美化に対する意識の向上(高揚)が一層なされるよう指導を続ける必要がある。

6. 総合評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校からの情報発信(H・P、学校便り、学年やその他通信)で保護者、地域の方へ学校の様子を知らせることで学校の状況を理解して頂き、今まで以上の協力を頂けるようになった。</li> <li>・学校、PTAが一体となりPTA活動に取り組み、特にクリーン作戦では多くの保護者の協力を得ることができた。</li> <li>・小中連携を強化し、小中合同研修会を実施、「城東校区地域推進連絡協議会」をたちあげ課題となっている学力向上にも取り組みを強化することができた。</li> <li>・少人数やT・Tの授業を取り入れることで、一人でも多くの生徒が意欲を持って授業に参加</li> </ul>

7. 次年度への課題・改善策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上のための基本となる、家庭学習の取り組みについての指導の工夫・改善が必要である。</li> <li>・城東校区地域教育推進連絡会議を設立し、校区内の小中学校、公民館の連携をとり生徒の健全な育成を図るよう努める。その中で学習指導や生活指導において九ヵ年を見通した計画及び指導を行うようにする。</li> <li>・生徒一人ひとりが、城東中の生徒としての誇りと自信を持つような、出番・役割・承認の場を与えられるように、地域との連携をより深めるようにする。</li> </ul>